

2017年12月19日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	社会学部・准教授
	氏名	石井 香世子
受入学部・研究科・研究所		社会学部
招へい 研究員	所属・職	Professor, Faculty of Arts and Social Sciences, The University of Sydney 協定の有無：学部 所在国：オーストラリア
	氏名	Nicola Piper
招へい期間		2017年11月20日～2017年11月26日（7日間）
研究経費		262,480円

2. 滞在中の活動

年月日	活動内容
2017年11月21日(火)	観光学部「アジア太平洋観光論」における講演 講演主題：Working Holiday in Australia: Another Form of Precarious Labour” 於：新座キャンパス 2号館 N215教室、参加者数約62名
2017年11月23日(木)	社会学研究科大学院授業「国際社会学」での講義とディスカッション 講義主題：”Migrant Precarity in Asia: 'Networks of Labour Activism' for a Rights-based Governance of Migration” 於：池袋キャンパス：14号館 D602室、参加者数：7名
2017年11月25日(土)	社会学部・科研費研究プロジェクト共催国際会議 “Children of Migration in Asia: Child Migrants, Border Crossing Children, Border Blurred Children”での基調講演 講演主題：”Migrant Precarity and Displaced Care at the Intersection of Temporality and Transnationality” 於：池袋キャンパス マキムホール 第1・2会議室、参加者数：52名

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

Nicola Piper 先生の招聘滞在中の活動は、学部における教育、大学院における研究指導、学部主催国際会議における基調講演と、3つの異なるステージでの活動を実施していただいた。

まず学部における教育活動としては、観光学部授業「アジア太平洋観光論」において、”Working Holiday Visitors from Japan to Australia”と題する講演を実施していただいた（2017年11月21日（火）、於：新座キャンパス N215 教室）。当該講演では、参加者数約120名のなか、オーストラリアにワーキングホリデー・ビザで滞在する日本人の若者について、アジアからオセアニアへの移民を分析するという移民研究の立場からの分析をご講演いただいた。留学にせよワーキングホリデー制度の利用にせよ、自分自身が「移民」であるという認識を持つことなく海外に長期滞在することが常態化している日本人学生たちにとって、本講演は「移民とはなにか」「自分自身もまた、移民の立場になる可能性は十分にある」という認識を持つことに寄与したと言える。

また大学院における研究指導としては、社会学研究科の授業「国際社会学 II」において、”Migrant Precarity in Asia: 'Networks of Labour Activism' for a Rights-based Governance of Migration”と題する講義ののち、参加者7名とディスカッション形式の研究指導をしていただいた（2017年11月23日（木）、於：池袋キャンパス D602 教室）。本研究指導においては、移民の立場の脆弱性（precarity）とは何かを、「市民権」をキーワードに分析するための切り口について、ご教示いただいた。参加者1人1人が自分の研究主題や調査主題に基づいて質問すると、先生は深いご見識と豊かなご経験にもとづいて、ひとつひとつ丁寧に「何が問題か」「どこに議論の尺度/変数を定めれば良いのか」「どのように分類する/しないことで、議論が発展するのか」といった点を、ご教示くださった。また先生は、日本の移民をめぐる状況についても真摯にご質問なされ、それに答えると、それがどのような意味を持つのかをアジア全体の移民研究を踏まえた見地から、解釈し、提示して見せてくださった。これは、履修者たる大学院生たちにとって、移民研究の深さと幅を思い知らさせる、良い機会だったということができよう。

さいごに、学部主催の国際会議における基調講演者としては、社会学部と科学研究プロジェクト Child Migration in Asia の主催による国際学術会議 Children of Migration in Asia: Child Migrants, Border-Crossing Children, Border-Blurred Children において、”Migrant Precarity and Displaced Care at the Intersection of Temporality and Transnationality”と題する基調講演をしていただいた（2017年11月25日 於：立教大学 マキムホール第1・第2会議室）。アジア太平洋地域各国からの研究者12名を発表者として招聘し、50人以上の聴衆が参加した本国際会議では、大変示唆に富んだ基調講演をいただいただけではなく、会議全体を通して議論をリードしていただき、重要なコメンテーターとしての役割も果たしてくださった。Piper 先生は、基調講演者としての枠を超えて、会議に多大な貢献を果たしてくださった。

<講演の様子>

